

# 越の国 はるかぜとともに 飛ぶ旅程

稲本海

2016年4月、仕事の環境上の変化があり少々疲れてしまっていた私は、気分転換のためにおいしいお酒を飲もうと、新潟への旅行をすることにしました。

基本的には奥羽線と羽越線で青森と新潟を往復する形で、新潟ではえちごツーデーパスを活用し、列車名のインパクトやその走りっぷりで話題となっているほくほく線の「超快速スノーラビット」や、列車の中で海を見ながら日本酒を楽しむ「越乃 Shu\*Kura」などに乗車する計画でした。

4月16日土曜日、青森駅から奥羽線の始発列車に乗り秋田へ向かいます。秋田からは特急「いなほ」号に乗りますが、ここで選択したの

はグリーン車。いなほ号のグリーン車は、現行の車両であるE653系が導入された際、新幹線のグランクラスのような非常に居住性の高



い座席が採用されており、この座席を体感してみたい、と以前より思っていました。乗車して

みると、評判どおり、車窓から鳥海山や日本海を眺めながら、ゆったりとくつろぐことができ、至高の空間で、新潟までの3時間半の長い旅程もまったく苦になりませんでした。

そこから、「しらゆき創作工房」というサークル名を冠しているからには乗らないわけにはいかなかった特急「しらゆき」号に乗り、長岡で地元のソウルフード「イタリアン」を堪能したりした後、新潟市内で宿泊しました。

翌日は、前述の通りほくほく線の超快速に乗車するため、まず上越新幹線で越後湯沢に向かいます。普段乗る東北新幹線からはすでに引退してしまった2階建て新幹線のE4系。高い位置からの越後平野の眺めを堪能し、40分ほど

で越後湯沢に到着。ここからほくほく線の超快速に乗り換える予定でしたが、この時点で越後湯沢ではものすごい強風が吹き荒れていました。こうなると心配なのは、田んぼの中をひよろひよろの高架線で突っ走るほくほく線や、Shinkuaで走る信越線の海沿いの区間に強風の影響が出ることです。特に信越線で足止めになると、ほかの逃げ道がありません。

考えた結果、超快速もShinkuaもあきらめ、まだ朝の早い時間帯で越後湯沢駅内でやれることもなかったため、そのまま直近の新幹線で越後湯沢から新潟に戻ることになりました。完全に無駄な往復です。

Shinkuaでお酒を飲めなかったので、代わりに新潟駅内の「ぼんしゅ館」で日本酒の試飲を楽しみました。これは、500円払えば、新潟が誇る100種類近いの日本酒の中から日本酒の試飲を楽しめるといふものです。銘柄によつてまったく異なる風味。すつかりほろ酔いになった後、塩辛いものがほしくなった私は、新潟駅の南にある「東横」で味噌ラーメンを食

べました。予定した行程どおりではありませんが、なんだかんだでそれなりに楽しめたかな？と思います。



さて、ここから青森に向けて帰らねばいけません。が、新潟市内もなかなかの強風、海沿いを行く羽越線・奥羽線ルートは風の影響を受けやすく、非常にリスキーです。悩んだ挙句、ルートを変更することとし、帰りの青森までの乗車券といなほ号の特急券を払い戻し。ただこの時

点では、乗車予定の特急いなほはまだ運行することとなっていたため、手数料が引かれてしまいました。

その後、とにかく日本海側は強風だからダメだ、と判断したので、まずは太平洋側に抜けるべく、新潟から仙台の高速バスに乗車。仙台からは新幹線で青森へと帰りました。ちなみに、仙台に着いた頃に運行情報を見てみると、乗車する予定だった特急いなほ号は運休が決まっていた。もう少し粘っていたら乗車券も特急券も無手数料で払い戻せたのですが、新潟で粘っていたところであまりの強風で高速バスもだめになった可能性もあります（事実、高速バスも強風で慎重な運転をせざるを得ず、数十分遅延しました）し、結果的にはベターな選択ではあったのかな、と思います。

ところで、仙台行き的高速バスに乗る決心をしたことについては、Twitterではつぶやかないようにしました。フラグ立てたらそこも旅程崩壊しそくないやな予感がしたのでね……。